



俳人。松山城下(現、松山市)出身。本名は陽光^{あきみつ}。伊予尋常中学校(現、県立松山東高等学校)時代、河東碧梧桐から正岡子規の和漢詩文集『七艸集』^{ななくさしゅう}を見せられて子規を知り、第三高等学校(現、京都大学)在学中、碧梧桐とともに、神戸で療養中の子規を見舞ったのが最初の出会いであった。第三高等学校を中退し、新聞『日本』に投句を始め、子規から「敏捷」と評された。明治30(1897)年、大阪朝日新聞社に入社するが、子規に勧められて新聞『日本』に入社した。

世話好き、話上手で座談がうまく、病床の子規にはなくてはならない存在であった。子規没後は根岸の子規庵保存に生涯を捧げるとともに、子規遺墨集や分類俳句全集などの出版につとめ、子規顕彰に力を尽くした。

略歴

- | | |
|------------------|--|
| 明治8(1875)年11月3日 | 松山城下の三番町に旧藩士・寒川朝陽 ^{ともあき} の第三子として生まれる。 |
| 明治25(1892)年 | 伊予尋常中学校卒業 |
| 明治28(1895)年 | 京都の第三高等学校に在学中に神戸の病院の子規を見舞う。
第三高等学校を中退 |
| 明治30(1897)年 | 大阪朝日新聞社に入社 |
| 明治31(1898)年 | 子規のすすめで新聞『日本』に入社 |
| 明治33(1900)年 | 署名入りの記事「新囚人」の筆禍事件で入獄。『入獄実記、新囚人』を刊行 |
| 大正4(1915)年 | 新聞『日本』の俳句の選者となる。 |
| 大正15(1926)年 | 子規庵を新築し、子規の母、妹を迎える。 |
| 昭和6(1931)年 | 子規庵歌会雑誌の創刊にあたり、名称を『阿迦雲』 ^{あかぐも} と命名 |
| 昭和29(1954)年8月18日 | 子規庵において78歳で永眠 |

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・愛媛県百科大事典編集委員室『愛媛県百科大事典』 愛媛新聞社 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・寒川鼠骨『正岡子規の世界』(復刻版) 六法出版 1993年
- ・愛媛新聞社情報出版局出版部『えひめ俳人名鑑』 愛媛新聞社 1994年

〈主な収蔵資料〉…(P224, 127~128)